

院内研修(介護力アセスメント) を行いました

4月18日 介護力アセスメントについて、院内研修を行いました。病院相談課 福島慎一を講師に、対象者は、看護師・リハビリスタッフ・ケアマネジャー20名が参加しました。

介護力アセスメントとは、ご利用者が自分らしく自立した生活(人生)を営むことができるようご利用者を取り巻く環境に関する課題を抽出し、解決策を導き出すための過程のことです。

ここでは特に、環境の中心となる家族が介護負担をどのくらい感じているのかを捉えておくことは重要です。その方法の一つとして、使用されるのが、ZARIT(=介護負担尺度)といわれるものです。これは、主介護者の介護に対する思いを聞き取り、介護の負担を評価するもので、質問項目は介護者の情緒的、身体健康、社会生活および経済的状态に関してなど全22項目で構成されています。そのZARITを用いて、相談員の視点だけではなく、他種職の視点も取り入れ自宅で生活するご本人の「その人らしい暮らしの継続」と、主介護者の介護負担を踏まえた上で、サービスや制度の提案、環境の調整を行ないます。

このように、介護力アセスメントを行なうことにより、在宅復帰や在宅生活の継続に向けた支援のあり方がより現実的なものになります。

今回は、院内研修を通して、相談員の支援の内容と視点を学ぶことで、情報共有や連携の重要性を再認識することが出来ました。